

	修正後	修正前
P8 1行目～	図3は、大和川が氾濫（ <u>大和川流域の12時間総雨量316</u> ミリの降雨（ <u>1年に起きる確率が1/1000程度の降雨</u> ）を想定） （略）そのため、水害時避難ビルとして（略）	図3は、大和川が氾濫（ <u>総雨量280</u> ミリの降雨（ <u>石川合流下流・200年に一度</u> ）及び <u>268ミリの降雨（石川合流上流・150年に一度</u> ）を想定）（略） そのため、 <u>津波避難ビル</u> ・水害時避難ビルとして（略）
P9 10行目～	大規模火災が発生し延焼拡大した場合の避難先である広域避難場所の <u>一つ</u> として、長居公園が指定されていますが、（略）	大規模火災が発生し延焼拡大した場合の避難先である広域避難場所として、 <u>東住吉区内には</u> 長居公園が指定されていますが、（略）
P10 2行目～	矢田 <u>1～7丁目</u> では、市民交流センターひがしすみよしが2015（平成27）年度末に閉館となり、現在、東住吉支援学校、（略）	矢田 <u>南部の周辺地域</u> では、市民交流センターひがしすみよしが2015（平成27）年度末に閉館となり、現在、東住吉 <u>特別</u> 支援学校、（略）
P21 下から6行目	① 民間活力の導入による <u>まちづくり</u>	① 民間活力の導入による <u>未利用地の活用</u>
P22 下から5行目～	・住居系地域としての都市機能のみならず、 <u>阪神高速大和川線に近い立地等を活かし</u> 、大阪市の南側の玄関口としての（略）	・住居系地域としての都市機能のみならず、大阪市の南側の玄関口として（略）
P24 3行目～	・住居系地域として発展してきた周辺地域と調和しながら、隣接する大和川や大和川東公園を活かした景観となる空間を創出（ <u>阪和貨物線跡地については、矢田南部地域のまちづくりと一体的な利活用を図る</u> ） ・矢田教育の森公園の機能向上及び既存の公園とのネットワーク化の促進 ・これまでに把握した区民等のニーズを踏まえ、憩いとうるおいを感じることができる魅力ある空間を整備	・住居系地域として発展してきた周辺地域と調和しながら、隣接する大和川や大和川東公園を活かした景観となる空間を創出 ・矢田教育の森公園の機能向上及び既存の公園とのネットワーク化の促進 ・これまでに把握した区民等のニーズを踏まえ、憩いとうるおいを感じることができる魅力ある空間を整備 ・ <u>阪和貨物線跡地の空間については、一体的なまちづくりとしての利活用を図り、公共空間を創出</u>
P24 下から11行目～	・周辺の施設状況を考慮しながら、 <u>集客・商業施設等を誘致することで</u> 、民間事業者の関係者や周辺住民の利便性が向上	・周辺の施設状況を考慮しながら、 <u>誘致した</u> 民間事業者の関係者や周辺住民の利便性が向上し、 <u>地域ににぎわいを創出することができる集客・商業施設等を誘致</u>
P25 下から5行目～	・「人権が尊重されるまち」を実感できるよう、これまで培われてきた地域コミュニティを尊重しながら、矢田南部地域のそれぞれの主体と周辺住民等との間での交流や協働の一層の促進 （例：地域の祭り等の地域イベントや防災訓練、校区小学校等による民間施設の見学等） ・ <u>誘致した民間事業者による敷地内及び周辺の防犯・防災力向上の取組</u>	・ <u>誘致した民間事業者による敷地内及び周辺の防犯・防災力向上の取組</u> ・「人権が尊重されるまち」を実感できるよう、これまで培われてきた地域コミュニティを尊重しながら、矢田南部地域のそれぞれの主体と周辺住民等との間での交流や協働の一層の促進 （例：地域の祭り等の地域イベントや防災訓練、校区小学校等による民間施設の見学等）
P26 イメージ図下部	<u>※赤字点線については、既存の南北道路を活用した、東西道路のネットワークを確保するための大まかなイメージ。</u>	

## ※その他

表紙	「(案)」を削除。「2018（平成30）年 <u>6月1日</u> 」に修正。
裏表紙	「2018（平成30）年 <u>6月</u> 」に修正。